

# 「みどり法」グループ認定 の取り組みについて

有限会社ファーマーズ・クラブ赤とんぼ  
代表取締役 北澤正樹

令和8年2月18日

# ファーマーズ・クラブ赤とんぼ

所在地: 山形県東置賜郡川西町



のどかな田園風景に囲まれた場所にあります



# 会社概要

- ▶ FC赤とんぼは、1995年8月に『地域農業と環境を守り、安全な食べ物を生産し供給する』というテーマに賛同した10名の農家と一緒に設立し、環境負荷の少ない農業を実践しています
- ▶ 設立以前から、地域の農家から田植えや稲刈りなどの作業を委託されることが多くありました。じいちゃん、ばあちゃんを田んぼから切り離さないためにも、若手農家が活躍できる共同利用の施設が、地域には必要と強く感じたことに加え、消費者から安全な農産物が欲しいという声が赤とんぼ設立の大きな理由となっています
- ▶ 農家戸数 54戸
- ▶ 事業内容

## 米の取組

- \* 米集荷
- \* 精米
- \* 販売  
(主に生協 等)

## 卵の取組

- \* 平飼い解放鶏舎で飼育
- \* 無薬（無投薬）飼育
- \* 飼料用米・子実とうもろこしを利用した自家配合飼料で飼育
- \* 就労支援事業所との協力による農福連携
- \* 「平飼い米っこたまご」販売  
(生協・道の駅・地元菓子店 等)

## 農家との取組

- \* 会員農家からの作業委託
- \* 各種認証申請
- \* 施設の共同利用
- \* 資材の共同購入

## みどり認定の取得内容【環境負荷低減事業活動】

ファーマーズ・クラブ赤とんぼの栽培基準として、3種類の栽培タイプを設け、これに沿った栽培を会員農家を実施する。

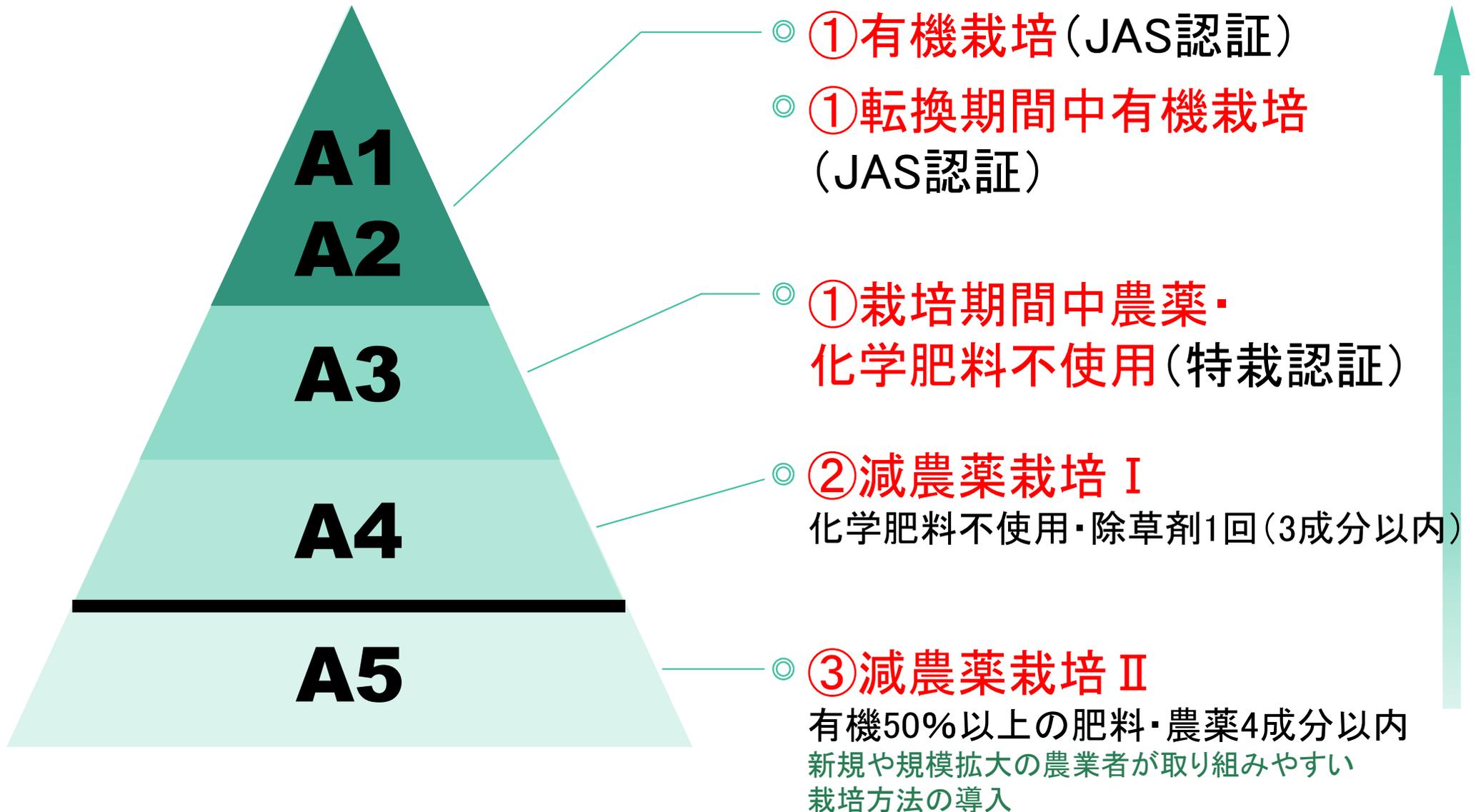
- ① 有機栽培、化学肥料・化学農薬不使用栽培
- ② 化学肥料不使用・除草剤1回栽培  
(3成分以内)
- ③ 化学肥料5割減・化学農薬低減栽培  
(栽培期間中使用成分合計4成分以内)

# みどり認定の取得内容【環境負荷低減事業活動】

令和6年2月申請 実施期間：令和6年4月～令和11年3月（目標年度）

実施内容（導入する生産方式）	資材の使用量等	
（有機質資材の施用） ・堆肥散布の実施 施用時期：3～4月	（現状） 1.2トン/10a	（目標） 1.2トン/10a
（化学肥料の施用減少） ・有機質資材の施用	（慣行） 7.0kg/10a	（目標） ①・② 化学肥料不使用 ③ 3.5N-kg/10a 以下
（化学農薬の使用減少） ・種子温湯殺菌の実施 ・畦畔除草の徹底による除草剤散布回数の見直し	（慣行） 20回	（目標） ① 化学農薬不使用 ② 3回（成分）以下 ③ 4回（成分）以下
環境負荷低減事業活動の取組面積等		（目標） ① 4ha増 ② 8ha増 ③ 8ha増

# ファーマーズ・クラブ赤とんぼ お米の格付け



# みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

## ① 土壌診断を行い、地域の畜産堆肥を活用した土づくりを実施

### 分析結果報告書

日環科 S3J33-8699 号  
令和 7年 5月 8日

有限会社 ファーマーズ・クラブ赤とんぼ 様

計量証明事業登録番号 山形県第27号  
〒990-2346 山形市高砂 1-1-1  
TEL 023(644)6900 FAX 023(644)6908  
日本環境科学株式会社  
代表取締役 安達 毅

環境計量士 安達 毅  
登録番号 第7887号

令和7年4月10日に御依頼がありました試料の分析結果を、次のとおり報告します。

#### 採取時の記録事項

試料名	北澤正樹(関根淳1)	試料区分	土 壌
採取場所	圃場No. 87/上山市 関根 西通 1153/15.7a	試験区分	含有量試験
採取日	令和7年4月6日	天候	前日 - 当日 -
		採取者	持ち込み

#### 分析結果

分析項目	分析結果	定量下限値	分析方法
窒素全量	mg/100g 230	0.1	ケルダール法
リン酸全量 <sup>※</sup>	mg/100g 170	0.1	バナドモリブデン酸 アンモニウム吸光度法
カリウム全量 <sup>※</sup>	mg/100g 440	0.1	ICP質量分析法
カルシウム全量 <sup>※</sup>	mg/100g 220	0.1	ICP質量分析法
マグネシウム全量 <sup>※</sup>	mg/100g 650	0.1	ICP質量分析法
腐植	% 4.3	0.1	チューリン法
以下余白			



# みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

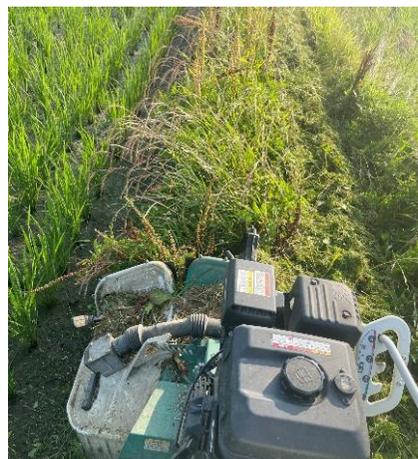
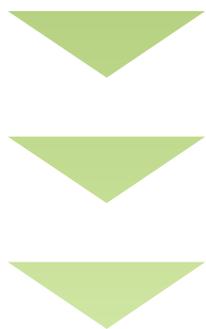
## ② 温湯処理による種子殺菌を実施



60℃のお湯に5分間浸すことで、化学農薬を使わずに病原菌を死滅させる、環境にやさしい殺菌方法です。2～3戸の農業者で施設の共同利用と共同作業を行うことで、労力・コスト削減にも繋がっています。

## みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

- ③ 畦畔除草剤不使用とし、年3～4回の畦畔草刈りを徹底
- ④ 農薬は4成分以内とし、殺虫剤はネオニコチノイド系を使用しない



私たちの田んぼには様々な生き物たちが訪れ、  
そこで暮らす生き物達の生態系を守っています。



# みどり認定の取得内容【販売に関する取組】

全国の生協と契約販売を行っています。特に化学肥料・化学農薬不使用栽培タイプについては、独自の農産物ブランドとして販売を強化しています。また、販売先との産地交流会を通じて、消費者の理解の促進にも取り組んでいます。一部の販売先には「生産者が分かるお米」としてお届けしています。



## 環境への取組

消費者との勉強会や農作業体験などの交流会を通して、赤とんぼの生産活動を伝えています。各地域の有機農業推進協議会に参加し、学校給食にお米や平飼いたまごの供給するほか、講話を行うなど、食育活動にも力を入れています。

また、こども食堂等への食材提供活動にも参加させていただいています。



# みどり認定取得後の新事業

みどり認定を取得したこともあり、令和7年3月に「国内肥料資源活用総合支援事業」に採択されました。

自然(資源)循環型農業の中心となる堆肥の利用拡大を目的に、会社敷地内に堆肥ストックヤードを新設。また、利用者の広域化に対応するために、会社から約26km離れた上山市の牧場内へ土間コンクリート整備を行いました。2箇所ストックヤードで地元の畜産農家と協力し、新たに牛ふんと鶏ふんを原料とした堆肥の製造を行っています。



赤とんぼストックヤード



上山ストックヤード

# みどり認定取得後の新事業

2箇所のストックヤードでは、地域の作物にあった良質な堆肥を生産するために、堆肥の勉強会を2回開催し、水稻の生育調査を行いました。

## 《生育調査結果》

堆肥の施用は、長期間の施用圃場と無施用圃場では収量・食味に違いがあり、堆肥の施用の方が良い結果となりました。

その結果を会員農家に伝え、堆肥の利用を促し、環境負荷の少ない資源循環型農業を広めていきたいです。また、販売先にも勉強会等を通して伝え、赤とんぼのお米により興味を持ってもらえるようにしていきたいです。

## 生育測定結果

測定項目	実験区 (堆肥あり)	対照区 (堆肥なし)
草丈	94.2cm	89.4cm
茎数	30.4本/株	26本/株
10a当たりの収量	8.5俵	7.5俵

## みどり法のグループ認定を受けてみて

- ▶ 赤とんぼと会員農家が行う生産活動をより分かりやすい形にすることができました。
- ▶ グループ認定を受けたことで、ストックヤードという新たなチャレンジをすることができ、生産者・赤とんぼ共に活気が出てきました。
- ▶ 赤とんぼの活動を理解し、協力してくれる仲間が増えました。

今後も資源循環型農業を継続し、拡大していくためにも、今の繋がりをより強いものにしていくことが大事だと考えています。そのためには、赤とんぼが作る堆肥を地域で作られている飼料用米、栽培が増えつつある飼料用作物、山形で栽培が盛んな果物などに利用してもらいたいと思っています。地域の農家と繋がりながら、楽しく、元気に農業ができるところになればと思っています。



**ご清聴ありがとうございました**